

## 第5回アイランドシティ・未来フォーラム

平成23年11月5日（土）

【事務局（谷口）】 それでは、時間になりましたので、開会に先立ちまして、事務局からご連絡申し上げます。

まず、本日お配りしております資料のご確認をお願いいたします。資料は、会議次第、委員名簿、座席表、それから、前回の提言の枠組みと論点整理案の区分に沿って整理いたしました「アイランドシティ・未来フォーラムの提言の枠組みと論点整理（案）による委員意見のまとめ」、それから、これまでの委員の皆様からの主な意見の整理表、そして、「アイランドシティ・未来フォーラム提言書（たたき台）——福岡の未来を先導するアイランドシティへ」、それから、たたき台の関連資料といたしまして、「アイランドシティにおける税収見込み額の推移」、それから、滝本委員にご用意いただきました「アイランドシティに2Sのご提案——スマート・ウェルネス・シティとスマート・コミュニティ」の資料、それから、貫委員にご用意いただきました「国際化・情報化を活用した福岡（博多）アイランドシティの付加価値向上策について」、そして、参考資料の「日本—香港関係の強化の動き」、それから、「孫文ゆかりの地 九州」、そして、出口委員長から柏の葉アーバンデザインセンターのパンフレットを2部、UDCKと柏の葉国際キャンパスタウン構想をお配りしております。それから、今日、大庭委員のほうからも、NPO博多の風の広報紙「風人」第28号もお配りをさせていただいております。

それから、委員の皆様には、これまでの会議での説明資料等をファイルにとじ込んでおりますので、必要に応じてご参照ください。なお、このファイルは次回も活用しますので、会議終了後は回収させていただきます。

それから、本日、青木委員、安藤委員、甲斐委員、長沼委員、平山委員、増山委員はご欠席でございます。海老井委員さんは少しおくれるというご連絡が入っております。

次に、報道関係の皆様及び傍聴される皆様には、当フォーラムの円滑な議事進行にご理解とご協力をお願いいたします。カメラ等の撮影取材は、委員の皆様のご自由な発言、議論の妨げとならないよう十分ご配慮をお願いいたします。

また、傍聴者の皆様には注意事項をお渡ししております。傍聴席からの発言、拍手等できません。注意事項を守られない場合は退席させていただきますので、ご協力のほどどうぞ

よろしくお願いいたします。

それでは、これより会議の進行は出口委員長にお願いいたします。

**【出口委員長】** それでは、ただいまから第5回のアイランドシティ・未来フォーラムを開催いたします。

本日は、前回に引き続きましてフリーディスカッションを中心に進めてまいりますが、前回に私からお示した提言の枠組みを発展させる形で、そのときの論点整理の項目に従いまして皆さんからいただいた御意見を整理し直しております。その際のご意見は、今説明ありましたけれども、委員意見のまとめ、それから意見整理表となっています。

また、本日は、委員の皆様からのご意見のまとめを進めていかないといけないわけですが、私の方で提言書のたたき台をつくらせていただきました。その内容を後ほどご確認いただきながら、またさらに追加のご意見、あるいは、この項目にとらわれることなくご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。できれば、進め方としましては、この提言書のたたき台に沿った形で進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

フリーのディスカッションに入る前に、次第でも既に準備してありますように、滝本委員からスマート・ウェルネス・シティとスマート・コミュニティについてのご説明をお願いしたいと思います。また、本日は、滝本委員からのお申し出によりまして、福岡スマートハウスコンソーシアムの代表でいらっしゃいますスマートエナジー研究所の中村様からもご説明をいただくことになっておりますので、続けてご説明のほうよろしくお願いいたします。

それから、次に、貫委員のほうから、国際化・情報化を活用した福岡（博多）アイランドシティの付加価値向上策についてということでご提案をいただいておりますので、そちらのほうを続けてご説明をお願いしたいと思います。

それから、3番目になりますが、既に以前このフォーラムでも委員の方からご紹介をいただいた、私が現在勤めております東京大学の柏キャンパスがごぞいます柏の葉のまちづくりとアーバンデザインセンターについてのご紹介を簡単にさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず初めに、滝本委員からご説明をよろしくお願いいたします。

**【滝本委員】** 九州産業局長の滝本でございます。

それでは、資料に基づいてお話をさせていただきます。

【出口委員長】 時間はどれぐらい必要ですか。10分か15分ぐらいでよろしいですか。

【滝本委員】 中村さんと合わせて20分ぐらいです。

それでは、前半のスマート・ウェルネス・シティということで、まず1枚めくっていただきまして、これは全体像です。昨年、新成長戦略というのを政府で閣議決定したわけですが、ここからいろいろな施策がどんどん出されていくんですね。九州の特性に合わせてそれをどんどん消化していくような仕組みづくりをしっかりとやっていこうじゃないか、実践第一ということで、アクションプランというのを60セットしました。その中に、健康・医療・福祉分野の取り組みというのも入っているわけです。

健康・医療の分野というのは、保険の話があるわけですが、保険の中で供給されているサービス等々というのは、予算の制約、制度の制約があるわけで、それ以外のところで高齢化の莫大なニーズを受けとめていく、あるいは市場化していくということが非常に大事だということで、九州においても全体の施策を推進していくフォーラムをつくらうということで9月に行いました。

これは、経産省的に言えば、医療機器の開発とか、普及とか、あるいは創薬分野、バイオ振興といったものも入っております。それから、いろいろな施策というのは基礎自治体を中心に供給されることが多いということなので、その政策の連携会議をつくらうということで、指宿で第1回を4月に開催しております。

指宿の中で、筑波大学の久野先生にスマート・ウェルネス・シティ構想を公表していただいて、各自治体からの反応が非常に大きかったので、じゃあ、九州の中で研究会をつくらうじゃないかということで、第1回を9月に飯塚で行いました。その中には福岡市さんからもご参加いただいて、今日ご説明するのはこの話でございます。

あと、キーパーソンの発表とか、食品関係のクラスだとかやっているんですが、次のページ、9月に三つ会議をやって全体の仕組みをつくりました。真ん中にある九州のSWC研究会を進めていこうということになっています。9月に行って、半年後をめどに、福岡市さんはいかがですかというようなことで話は進んでいる次第でございます。

これは、全国の研究会というのがあって、4年前だったですか、第1回を進めていたから3年前だったか、ここでは15となっています。これは九州のほうですね。22団体84名の参加のもとに、久野先生の基調講演と関心のある自治体の取り組みについて話をし、意見交換をした次第です。

こういった九州のいろいろな取り組みがあるということですが、これは全国の市長さんの集まりでございます。健康年齢を引き上げる、寝たきりにならないためには総合的な取り組みをしていかなければいけないので、市長さんあるいは副市長さんの参加でなければ意味がないということで、市長さんみずから参加している会議です。1月現在15市になっておりますが、19の市が参加しております。九州からは、指宿、豊後高田、武雄、天草、飯塚といったところが参加をして、幾つか検討しているという話がございます。

高齢化のスピードが速くなって、それから保険の総費用もウナギ登りになって、2020～2030年あたりでピークアウトしてくるという感じです。

健康づくりというのは、自分の健康は自分の勝手にしようという話ではなくて、いろいろな費用がかかっていくことです。健康維持というのは社会貢献であって、個人が心身ともに健康であるというのは社会とのつながりにおいて非常に重要な関係を有しているということです。

取り組みの中でe-wellnessという運動プログラムをつくって、60ぐらいの自治体で行って来ました。健康年齢を半年で大体平均で5歳ぐらい下げしております。一番大きなところでも見附の631名ということで、必ずしも何千人という規模で実現しているわけではないんですね。また、医療費についても大体1人当たり10万円ぐらいの抑制に貢献できている。これは茨城県の大洋村の実験で示されてきて、全国60の自治体でもすべてこのモデル事業で結果を出しています。

やる気のある人たちが集まって結果を出しているというのが現状なので、関心のない人、やる気のない人をいかに巻き込むかというのが非常に大事で、リテラシーとソーシャルキャピタル——社会的な関係資本というのが非常に大事だろう。自分が社会の中で生かされている、働きかけて役割が見出せることが非常に大事だということです。

例えば糖尿病は、まちづくりのあり方が非常に大きく影響を与えておまして、東京というのは公共交通機関が発達していますので歩く距離が非常に長いということで、糖尿病の割合を愛知県と比べてみると、1.5倍近い、顕著な差があります。愛知県の姿というのが大体の地方の姿ではないかと思えます。

したがって、総合的な政策——食事とか、住民の環境とか、まちづくりや歩きやすいまちであるといったことが非常に大事でありまして、総合的な政策としての健康施策を進めていくべきではないかというのがスマート・ウェルネス・シティのポイントであります。

これをサポートしていこうということで、内閣官房の地域活性化事務局のほうでも久野

さんとの勉強会を各省庁連携でやりまして、地域再生制度の中に特定地域再生制度というのが来年から盛り込まれるという話を聞いております。

見附市が一番熱心に取り組んでいると思われる自治体で、詳細は省きますが、この内容はかなり総合的になってございます。

福岡市のアイランドシティの構想というのは、生涯を通じてだれもが健康で生き生きと暮らせるまちづくりということでありまして、まさにスマート・ウェルネス・シティの考え方にぴったり合っているんじゃないかと思っております。

このアイランドシティを実証地区、モデル地区にして、それを福岡市全体に広げていく施策を展開したらどうかということでもあります。ただ、高齢者の方はあまりいらっしやらないということなので若干制約もあるのかなという感じはいたしますが、まちの将来を見越したモデルとして重要ではないか。さらには、ここでのいろいろなプログラム、ビジネス、サービスを東アジアに展開していくというのも可能ではないかということです。来年の2月、3月あたりに第2回の研究会をシンポジウムという形で展開していただけるとありがたいなと思っております。

以上、スマート・ウェルネス・シティのお話でございます。

次に、スマート・コミュニティなんですが、これは実際にやっている中村さんにお話しをいただければと思います。

**【出口委員長】** では、続けてお願いいたします。

**【スマートエナジー研究所（中村）】** スマートエナジー研究所の中村と申します。よろしく申し上げます。私は、福岡のスマートコンソーシアムの代表をやっております、横浜のスマート・コミュニティの副代表をやらせていただいております。

パワーポイントの資料、一部皆さんのお手元の資料に福岡のコンソーシアムの資料が入っているんですけども、私は、明日、明後日に、キグナスという会社で講演会をします。ちょうどこの話題で最新のプレゼン資料を用意してたんですが、ただ、時間が非常に短いものですから、ポイントをかいつまんでお話しさせていただきます。

技術的にどういうふうにスマートハウス、スマート・コミュニティをつくるのかということもあるんですけども、話の内容は、コンセプトがどうあるべきで、どういうものをスマートハウスやスマート・コミュニティというのは提供していくんだろうという切り口で私たちは活動しております。

これは1時間ほどの資料なので、どんどん飛ばしていきます。すいません、お手元の資

料にないんですけども、普通に聞いていてわかります。申しわけないんですが、一部ちょっとダブっていたりしています。

2年ほど前、スマートハウスについてのコンセプトとしてグランドビジョンというのをつくりました。このグランドビジョンというのは、エネルギーというものを私たちの暮らしと対応させたときに、純粹に私たちが生活し生きていくためにはどういうふうなことを基本として考えてゆかなければいけないのかということで、非常に根本的な、根源的なところをテーマにエネルギーを追求して示したものでございます。

自然に学ぶということで、自然のどの仕組みをどういうふうに私たちは使っていったらいいのかということなんですが、自然の特に植物細胞が持つ生存システムというのが、35億年の歴史の中で今まさに私たちの目の前に存在しているということで、この生存システムを私たちの生活の中で生かせれば非常に素晴らしいんじゃないだろうかということは何年も前から考えていたわけでございます。

スマートエナジー研究所をつくったのはちょうど丸々2年ほど前で、今3年目です。スマートエネルギーという言葉もまだポピュラーでなかったんですけども、その発足の最初の段階で考えたのが生命観に基づくコンセプトだったわけです。これは、自然、特に植物は、エネルギーを生み出す部分と、それを上手に加工して蓄積する部分から成ります。そういうシステムで生き延びられたのだから、家という小さな単位を社会の一つの最小単位の中で非常に完成度の高いエネルギーの自律システムが考えられるのではないかとことです。もちろん電気ばかりではなく、ガスなどの熱エネルギーをどう使うのかというのがありますが、そういうことで、生命観に基づくコンセプトによる家づくりという話を始めました。

私は静岡に住んでいるんですけども、福岡の皆様非常に何度も、数十回にわたって呼んでいただきまして話をしていたら、ぜひアイランドシティにあるレンガハウスでこの実験をしてみませんかという話がありまして、福岡スマートハウスコンソーシアムが立ち上がっております。今現在、福岡のスマートハウスは日本のあらゆるスマートエネルギーのモデルになっているんじゃないかなと思うぐらいポピュラーになりました。私としてはとてもよかったなと思っております。

まず、このスマートハウスとは何かということです。スマートハウスというのは、今不足していることに対して四つの効果があります。一つは、3.11以降、電力会社は電力不足と言われてはいますが、この電力のピークの平準化、ピークシフトに対して効果が

ある。また、自然エネルギーを導入すると、自然の振る舞いで突然発電したり発電しなかったりします。夜は発電しないとか、風が吹いたら発電するということで、自然があるエネルギーを持ったときに十分取り出せるような環境をつくる。そしてEVやPHVなど、電気を使う自動車に電気をアシストする。また、もちろん停電時ですね。そんな意味でも、スマートハウスというのは非常に効果があると私たちは言っております。

これが福岡のスマートハウスの基本的な考え方で、こちらが太陽電池で、電気をつくる場所、あるいは熱を集める場所、制御をする部分、蓄電ですね。これがエネルギーシステムとして非常にダイナミックな動きをするということがポイントで、エネルギーが生まれた瞬間に、必要な場合はさっと蓄電し、放電が必要な場合はさっと放電するというダイナミックなエネルギーシステムをいかにつくるのかというのが非常に重要なテーマです。

福岡のスマートハウスコンソーシアムは、二つの大きなアプローチをしまして、一つは、エネルギーをいかに上手にやりとりを実現するためのツールをつくることです。今日は私の隣にdSPACEの有馬社長に来ていただいておりますけれども、車や飛行機で培った最新のモデルベースデザインという手法を使った開発システムと、また、それによってでき上がった装置の検証という二つを柱にしてこの2年間福岡でやってまいりました。

これが非常によくて、この後コミュニティの話につながってきます。一つ一つの自律的なエネルギーシステムがある程度完結するというのがとても大事なことなんですけれども、それができ上がれば、エネルギーの融通ということが可能になる、これが自然のシステムの重要なところじゃないかということですね。この場合は、系統から一定に吐き出したり、これが繰り返したり、また、相互融通したりということででき上がっております。こういうエネルギーのやりとりのため、一つ一つのエネルギーシステムとITの力を両方融合することで、エネルギーの単独システムから上位のコミュニティとしたときのエネルギーシステムまで階層を上げていくという未知の技術が必要になることが予想されております。

福岡スマートハウスコンソーシアムでやったことを横浜でもやってほしいという要望が横浜市からありましたので、横浜市としてスマート・コミュニティという団体をみんな一緒に作り上げてきました。これは、横浜市のぜひにという要望のもと、福岡の成果に基づいて横浜でコミュニティづくりを今進めているんですけれども、その心は、福岡でいろいろ行ったエネルギーシステムの完結性の上に情報システムによって連結したエネルギーシステムが成り立つということ、さらにそれがスマート・コミュニティとしての役割、単なるエネルギーばかりじゃなくて、まちとして人間性を尊重して、例えばアートを組み入

れたり、その土地の文化を考えたりしながら、人間がいかに豊かで元気に生活できるか、100年続くプロジェクトを目指してスマート・コミュニティを立ち上げたわけです。

こちらがスマート・コミュニティで今進めようとしていることです。スマートハウスによるエネルギー階層がある程度完成を見たら、それをネットワーク、ITの力を使って情報が見える化して、例えばまちとしての機能で高める。ただ、システムが非常に安定している場合には、もちろんシステムがあれば、それぞれ独立して存在することはもちろん構わない。不足しているときにはこちらから上手に逆潮流するとか、あるいは完全に停電した場合は、それぞれの家である程度相互に見える化して電気を融通することが可能になるような、まちとしての災害時に強いまちづくりを目指しています。

一つ特徴的なのは、こちらにエネルギーセンターなる集会場みたいなものがあるので、ここに少し容量の大きなバックアップシステムを設けます。まちといっても10軒とか20軒の小さな集落みたいなものを意識しているんですけども、公園の中に集会場をつくり、そこを通じて、小さなコミュニティの中でそれぞれが自律したエネルギーシステムをつくっていく。そのときに、まちの特徴となるようなアートだとか、さまざまなものを入れた形で実現していきたいなと思っています。

私たちは、こういったことで活動を進めていきました。基本的にはこれがプレゼンテーションのほとんどなんですけど、アイランドシティにあります福岡スマートハウスと呼んでいるレンガハウスには非常にたくさんの企業の方が入っていただいています。私はここの代表を務めております。今日、副代表をやっているdSPACEの有馬社長も来ていただきました。こちらは、お手元の資料にも一部入っていますけれども、手弁当で実験を進めているというのがとても特徴的かなと思います。どういうふうにしたらスマートハウスと呼べるエネルギーシステムができるのかというのを皆さんで詰めているということです。話し合いながら進めているということですね。

これは実験風景です。これは内覧会の際の記念撮影です。これはアバーン長崎さんという長崎の会社ですね。エネルギーシステムをつくっていただいて、展示でデモンストレーションをしております。これは先進的なモデルベース開発手法を使ったミニハウスなので、いきなり大きな開発をするんじゃなくて、小さな50分の1の試作をつくりまして、それで積み上げて開発しています。こちらでは、デモによるいろいろな展示会が頻繁に行われていて、年間10以上の展示会がございます。そして、モデルベースを使って容量の大きなものをつくりました。こちらはセミナーの風景です。



ファイリングが少しくまかないんですけれども、横浜は今50社ほどの仲間たちがいまして、ファンケルさんや日本電産さんという大手さんですね。特徴的なのは、安藤建設さんとかいらっしやいますね。そういう建築会社の方が、どういうふうにまちづくりをしたらいいか、一緒になりながら彼らが理想とするようなまちづくりのために今奮闘しております。

最後に、スマート・コミュニティとは何かということで、人が元気で心豊かに生活できる町じゃないかということと、あと、自然環境の再生に力を入れていて、環境への負荷が少ない状態を保ちながら成長していけるまちというふうに考えております。

3.11以降、失ったものは何だろう、触れ合いとコミュニティとエネルギーじゃないかということで、これをまちの力で復活していく、特に触れ合いから復活させていくにはどうしたらいいか。集会場を上手につくりながら、再生に向けた活動をしていこうじゃないかというのが横浜の活動になります。

最後に、横浜スマート・コミュニティのコンセプトは、自然と人間を慈しみ、科学技術は支援するという立場に立つ活動哲学ということで、その土地の文化や芸術、気候といったものをよく学び、私たちの生活はどうあるべきなのかを考え、まちをつくっていこうというコンセプトなんです。福岡スマートコンソーシアムの参加団体が横浜で活動する。そこでは、いろいろなコミュニティで暮らす人々に光を当てて、その人々が生き生きとしていくためにはどう自然環境と調和していくのかということを考えていきたいと思いますということなんです。

こういう呼びかけに対して、49社ぐらいのとてもたくさんの方に集まっていただきました。この集まりの中で、車関係、ゼネコン。ハウスメーカー、大学、化粧品のファンケルさん、本田ソーテックさんやゼーファーさんという、さまざまな分野の方がいろいろな角度から取り組んでいます。まだ始まって間もないんですけれども、頻繁に交流しながら、あるべきまちとは何かについて、それぞれが意見を出し合って進めています。

これはせんだってハウステンボスでやったセミナーで、150名中150名、いっぱい集まって入り切れなかったんですけれども、非常に関心があったということで、我々がどういうふうなまちをつくっていくのかということをもさまざまな分野の方と語り合うことが私たちとしては非常に重要だと思いました。

昨日、福島のアツコさんというキャスターから私はインタビューを受けたんですが、電気メーカーさんなんかといろいろ話していて、どういう暮らしになるか全然見えてこない

という話がありました。暮らしとか暮らし方にフォーカスしたまちづくり、家づくりというのがほんとうに大事なんじゃないかということで今進めているということです。

ちょっと長くなって申しわけありませんが、私の話は終わりたいと思います。

**【滝本委員】** ちょっと時間が延びてしまって申しわけないんですけども、あと一言だけ。この前見学に行ったときに、サイバー大学が1フロア、ちょっともったいないなと思ったんです。福岡コンソーシアムのメンバーの中で、企業人材の育成を中心としたプログラムを組んで、あそこを日本の一つの人材育成のセンターにするという話を、中村さんとか福岡市の方ともお話をさせていただいているところです。どうもありがとうございました。

**【スマートエネルギー研究所（中村）】** ありがとうございました。

**【出口委員長】** もし御質問等あれば、簡潔にお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

例えば最初のスマート・ウェルネス・シティについて、先ほどのパワーポイントでは、福岡市の健康未来都市構想も踏まえて、アイランドシティは実証の場という位置づけになっていましたけれども、具体的には実証というのはどういうことをされて、どういうモデルをつくり上げようという構想なのでしょうか。アイランドシティとの直接的な関係についてももう少し言及していただいた方がわかりやすいかと思いますが。

**【滝本委員】** 健康に対するリテラシー、健康についての知識を住民がしっかり持っているということ、それから、歩きやすいまちづくりですね。基本は歩くこと、散歩すること、ジョギング等やることのようなのです。ほかの自治体なんかは、健康基本条例みたいなものをつくって、中心市街地から車を排除するとか、それから、歩きやすい歩道やサイクリングロードを整備するというを考えているようですけれども、そういったまちの設計の中に健康志向をしっかり組み込んでいくことが考えられるのかなと思います。

**【出口委員長】** あと、もう一つのスマートエネルギーのほうはよろしいですかね。中央公園の中にあるレンガ住宅を使って、それを活用することを今考えられているということで、大体わかりましたが、その後どうされるのかというような構想がもしあれば、手短かにお願いしたいと思います。

**【スマートエネルギー研究所（中村）】** 今、市役所の方ともいろいろ話しておりまして、あのレンガハウスを見たいという話が結構ひっきりなしにあるものですから、あそこをなるべく常設展示場としたいと思っています。あそこで出た成果を参考にしているいろな

方々にスマートハウスは何かというのを理解していただくということで、象徴的なものとして、福岡発のレンガハウスを日本のエネルギーシステムの発祥の地みたいになりたいということで今市の方と話しております。常設展示になるかどうかはもちろんまだ決まってありませんけれども、来年そういった動きを進めていきたいという話になっております。

【出口委員長】 次に開発する市の5工区の開発への国のご支援に、是非つなげていただきたいという希望は我々も持っていますが。

【滝本委員】 説明の中になかったんですけども、23年度はF Sと勉強代、実証については、福岡県関係、アイランドシティの話とF S代、それから、福岡スマートハウスのほうも、実証試験ということで、数億単位ですかね。

【スマートエネルギー研究所(中村)】 福岡は自分たちの検証のレベルは実費で今やっています。来年は、数億ということはないと思うんですけども、ハウスのほうは常設展示みたいな形で予算の申請を考えていただいていると思うんですけども。

【滝本委員】 いずれにしても、これからこのエネルギーシステムの改革というのは進んでいきますので、相当予算のほうも、国としても、競争的資金ですけども、準備することになると思います。

【スマートエネルギー研究所(中村)】 ああ、そうしたらすごいですね。

【出口委員長】 競争的資金に応募をして、それが採択になれば、アイランドシティでももっと大きく展開できるということですね。ありがとうございました。

どうぞ、森委員。

【森委員】 赤レンガの話が出ましたのでひとこと。住民からあの赤レンガは一体何やるかといった話だったんですが、立派なレンガ建物なので、あそこで喫茶とか、あるいは談話室とかをつくっていただくとすごくいいねというお話が出ていたんですね。

今お聞きすると、立派な研究をされた成果が、何で横浜で発表しなくちゃいけないかみたいところがあるんですが、それはさておき、できたらそういう場所に住民や市民がたくさん来るということであれば、そういうところで談話できるとか、その住民と直結できるような配慮をぜひ考えていただければなと思っております。

【出口委員長】 ありがとうございます。是非いろいろと活用していただければと思いますが、あのレンガ住宅は九州大学のプロジェクトで建設をしております、私もそのプロジェクトの事業推進担当の一人でした。レンガ住宅をつくるに当たっては、市との間の調整もさせていただきましたので、どんどん活用されていくのは非常にうれしいと思います。

ただ、あくまでも世帯向けの住宅としてつくっていて、内部には部屋割りができていますので、喫茶などの集客施設として利用するには手狭な気がします。その周辺に新たにつくっていただくのはいいかと思います。少し予定の時間をオーバーしておりますので、この話題は終わり、次に移らせていただきます。

次は私から、柏の葉の取り組みとUDCKについての説明をさせていただきますが、皆様のお手元にパンフレットを配らせていただいておりますので、こちらをご覧くださいければと思います。

2つの資料を配っております、一つは、柏の葉国際キャンパスタウン構想というパンフレットです。これは千葉県、柏市、東大、千葉大が中心になってつくった構想です。2008年にこの構想を策定し、この構想に基づいて、今、柏の葉地区のまちづくりが進められています。

もう一つのパンフレットは、UDCK、柏の葉アーバンデザインセンターというネットワーク的な組織紹介のパンフレットです。裏を見ていただくと組織がありますが、センター長を私が務め、千葉大学、柏市、柏市の都市振興公社、それから地元のNPOといった関連団体の方々がスタッフあるいはディレクターとして参画しております。

つくばエクスプレスという高速の鉄道が秋葉原とつくばを結んで開通しまして、その沿線が区画整理をされております。柏の葉キャンパス駅は秋葉原から30分ほどの駅で、270ヘクタールの区画整理の計画が既に進んでおりまして、一部高層マンション等が供用開始されております。この区域は、2035年までに計画人口2万6,000人という規模で計画されており、その開発を今進めているところです。既に大きな街区が二つ供用開始になっており、三井不動産さんが中心となり頑張られて開発をされております。これから、長年かけて新しい開発を推進していかなければなりません。

その一方で、既に居住者が住み始めています。その住み始めている居住者の人たちのコミュニティを育てなければなりません。開発と同時並行で推進していかなければいけませんし、その間をつないでいかなければいけません。居住者の方々もどういうまちがこれからでき上がっていくのか非常に関心が高いですし、そういう意味ではアイランドシティと似たような状況ですね。そうした役割を果たすために、このアーバンデザインセンター柏の葉——UDCKがつくられています。

そのセンター長を私が務めておりますが、コミュニティを育てていくための活動、新しい計画を推進していくために道路を整備したり、公園を整備したり、あるいは新しい街区

を開発していくためのデザインのガイドラインをつくったりということをここで皆さんで議論しながらやっています。UDCKはそういう活動を集めていく場でもあります。それが駅前に独立した建物として立地しています。

前回あるいは前々回の委員会で、本日ご欠席の平山委員から主にご紹介をしていただきましたので、参考までに私のほうで資料を用意させていただきました。時間があればパワーポイントでご説明をと思ったのですが、時間も大分押しておりますので、資料を見ていただき、ご関心のある方は、ホームページでご確認いただければと思います。

平山委員もおっしゃっていましたが、こういう施設が、まちを長年かけてつくっていくための一つのエンジン役になるわけですね。森委員や村田委員から言われた居住環境をブランド化していくためのさまざまな課題、あるいはコミュニティを育てていくための課題、そういったものを皆さんと一緒に考えながら解決していくためのネットワーク的な取り組みの拠点でもあります。

申し訳ありません、貫委員のご説明もありますので、私からはこれで終わらせていただきます。

貫委員からのご説明は、国際化・情報化を活用した福岡（博多）アイランドシティの付加価値向上策についてということで、こちらはパワーポイントを使うことでよろしいですか。

**【貫委員】** あまりお金をかけないで、いかにしてアイランドシティの付加価値向上を図るかという試案、ちょっと思いついたことを文字にしましたので、簡単にご説明させていただきますと思います。

本資料のポイントというところに書いているように、福岡の発展にはアジアの活力導入が必要である、しかし、アジアの経済人は九州・福岡のことを意外と知らないということで、それをつい最近思い知らされましたのがこの紙ですね。この1枚物を見ていただきたいんですが、日本一香港関係強化の動きとして、つい最近、9月2日の日に、右側の大きな四角の中の②香港・日本経済フォーラムが香港でございました。日本からは日本商工会議所から岡村会頭、日本経団連から多田さんが行かれて、九州からも、長崎県知事、福岡と熊本の副知事、それから、同友会からは私が行かせていただきました。向こうからはジョナサン・チョイという香港中華総商会会長が出席されて、梅谷庄吉展には、福田元首相、それから、あちらからは董建華という前の香港の元首、それから中国の要人が来られていました。ここで、下に書いているように、中国側には香港を通して中国との連携強化、関

係強化を図りたいとの非常に大きな意図がある、この機会を活用することが必要だろうということを実感しました。ただ、上層部の人たちは九州のことをほとんどわかっておられない、知識ゼロだという感じでした。その証拠が、左側の上のほうにある九州と香港間貿易の現状で、香港は九州の輸入額の0.2%しか占めていなくて、非常に交流が少ない状況です。

これではもったいないなということで、九経連に働きかけました。同友会はあまりそういう組織を持たないので、向こうの商工会と九経連と経済関係の協定を11月30日に結ぶ予定で今進めておるんですけども、そのときに、ここにあるパワーポイントふうの「孫文ゆかりの地 九州」というパンフレットで、九州のことをいろいろPRしました。これは実は私が9月2日に皆さんの前で説明したものを少し強化したものですけれども、これを全部中国語に直して、向こう側に配ろうとしています。一番最後に青木麗子さんのJapan Onlineが出ていますけれども、そこにもこれを掲載するという形でやろうということで今やっている最中なんです。

本文に戻っていただきまして、そういうことで、意外とアジアの経済界・政治のトップは九州・福岡のことを知らないということを前提として導入すべき機能ということで、現在福岡には国際的な活動を行う組織・団体が数多く存在していて、一番最後から2枚目に、福岡県に立地する主な国際関係団体というのをずらっと並べました。これだけの団体があるんですけども、なかなかこういう団体が相互にどういう活動をしているのか、どういう情報があってどういう機能があるかあまりご承知なくて、非常にもったいない状況に置かれているのが実態ではないかと思います。また本文のほうに書いてございますように、こういう組織・団体の活動内容について、情報の「見える化」をしたらどうだろうかということです。比較的簡単で、データセンターにそれをすべて収録して、それをうまく活用できるソフトを開発すれば、これはそう難しくはありません。

そういう機能をアイランドシティに置くということですね。名称をどうするかというのはいろいろあるかと思いますが、博多アジア情報ゲートセンターとか、ゲートウェイセンターとか名づけて、発受信を行う。大した機能は必要ではなくて、コンピューターと何名かの技術陣がおれば情報の受け渡しは十分できるだろうと思います。仕事の中身としては、外国人・企業等への総合窓口とか、それから、国内から海外に出たいという方へのいろいろな情報のワンストップ対応ができるような機能をここに持たせたらどうだろうかということです。

ただ、これだけでは事業として成り立つかどうかというのは非常に難しく、税金という形になりそうなのですが、(3) アジアへの情報発信、これが事業化が本気になって検討されている最中だと思います。アジアの携帯電話事業者に対していろいろなコンテンツを育て売買するというプラットフォーム事業が今具体的にいろいろ検討されていますけれども、そういうものを活用して、日本のいろいろな情報を海外の携帯電話会社に販売して、それで見てもらおうという形をとれば、情報発信と同時に事業もできるかもしれないということです。

海外の携帯電話の数は、一番最後の図面の一番下に書いていますように、インドでは携帯電話加入者が5億ぐらい、インドネシアが1億5,000万、中国では7億ぐらいの人たちが携帯電話を持っているということで、市場は大変大きいです。そういうところに出すという形で、そういう事業をサポートするような機能をこのゲートウェイセンターに持たせて、金をかけない格好で情報を生かすことによって福岡・九州が知られて国際化が進むことを期待しています。情報のワンストップ機能を持つようなところをつくったらどうかというわけですね。

そのときに、一番最後に書いていますように、サイバー大学はもったいないので、ここで日本語講座とか、あるいは外国人が日本での資格を取得できるような講座を開催するようなことができれば、また知名度も上がるかもしれないなという発想です。

もう一つ、名前が今F I C——福岡アイランドシティになっているんですけども、福岡というのはちょっと広過ぎるので、博多という名前がこれについたほうが、拠点性、知名度を上げるという意味ではいいのではないかと。福岡(博多)アイランドシティか、博多アイランドシティかわかりませんが、博多のほうがいいかなというのをちょっと思いつきましたので、つけ加えたいと思います。

以上で終わらせていただきます。

**【出口委員長】** どうもありがとうございます。

大変興味深い、アジアとのつながりをもっと強化する機能を福岡に設置するべきのご提案ですけども、何かご質問等ございますか。

これも、アイランドシティの都市開発とどのように直接関連づけて考えることができるのでしょうか。施設がアイランドシティの中にできるというイメージですか。それによってアイランドシティに雇用が生まれたりすることにつながるのでしょうか。

**【貫委員】** 雇用は今後の問題になると思うんですけども、スタート時点としては、

どこかのビルの一部に事務所を備えて、そういう機能といいますか、事務所をつくるだけで、看板を上げるだけで始まるかなという感じですね。国際化に絡んでいろいろな形の付帯した事業が発生するならば、アイランドシティに出てくるでしょうし、まずは事務所をつくって情報の発受信をやるということを広くアジアにPRして機能をつくっています。

まずは、データセンターにデータを収録して、それをうまく活用できるソフトを開発するといいますか。これはおそらく二、三千万でできて、あまり金はかからないと思うんです。事務所をつくって何人かの人間を雇うだけですので、大した金はかからない。看板を掲げて、これを例えば青木さんのところのJapan Onlineかなんかに載せて、アイランドシティの情報センターにアクセスすれば日本のことはすべてわかると国内にも国外にも幅広くPRをしていけば、知名度は上がっていくのかなと。そのときに福岡アイランドシティもいけれども、博多という名前をつけるほうが親しみがあるかなということです。

【出口委員長】 伊東委員、お願いします。

【伊東委員】 私も貫委員のお考えに賛成です。以前からこの会議で提唱していますように、自民党政権時代に麻生総理が提唱された、当時は特にアニメだけに特化されていたように思われますけれども、メディアコンテンツセンター、情報センターというようなものは福岡にあってこそふさわしいなと思うんです。だからこそ、このアイランドシティ、前回の会議でも申したように非常にクリーンなビジネスという意味で、そのようなデータセンター及び、そこにコンテンツを生成して、そこがコンテンツの生産場になるだけじゃなくて、流通の拠点になる、ハブになるというような、アジアのコンテンツロジスティックスの拠点みたいなものを福岡につくっていくことが将来の発展につながるのではないかと、思っています。

今、TPPとかいろいろな問題が語られていますけれども、アジアの市場性を世界のコンテンツ市場においても確立するために、日本もアジアに向けて具体的な策を考えなければいけないし、その拠点を福岡につくることが大事で、そのためにはどうやってコンテンツを生産していくか、ということが大きな問題になるわけです。

私は以前、文化庁のメディア芸術祭を立ち上げたこともありまして、長崎と富山と結んで水辺の映像祭という海辺の都市を結んだコンテンツを共有するプロジェクトをもう5年やっております。その中で700ぐらいのメディアアート化したコンテンツを共同保有しています。それは地域の文化圏の自立と人材育成に向けた取り組みでもあります。



先ほど手弁当という話が出ましたけれども、そういう民間の有志、篤志によって成立しているコンテンツ、フリーな著作権提供によるコンテンツマーケットという実際例、方法論もありますので、現在、日本がその上で非常にその主導的な立場にあるということは間違いありません。これからはどうなるかわかりませんが、その立場を守るためにも、アジア市場に向けた拠点を福岡につくるということは未来の福岡の基盤産業を作る可能性があるし、これから日本が取り組んでいかなければならないことをこの福岡でぜひやっていただきたいと思います。

【出口委員長】 ありがとうございます。はい、どうぞ。

【貫委員】 今のは全くそのとおりだと思います。今、具体的に動いているビジネスモデルとして、チャイナモバイルの公式マーケットで行うデジタルコンテンツの販売を支援するプラットフォームが事業として成り立つかどうか、今、検討を我が社の子会社がいろいろやっています。それがコンテンツ市場で売れるようになれば、またコンテンツ産業も育っていくんじゃないかなということだと思えます。

【出口委員長】 ありがとうございます。今の貫委員と伊東委員のそれぞれのアイデアを組み合わせていただいて、いわば情報発信の施設を単につくるだけでなく、その大もとになるデジタル文化の発信に関わる活動とか、あるいはデジタル産業のようにコンテンツを生み出す機能とうまく組み合わせていただいて、大きなチャンネルをアジアに向かってつくっていただくと非常におもしろくなってくるなという印象を持ちました。

【伊東委員】 データ流通だけだと見えないですので、都市のどこにあっても同じことなんです、物理的なメディアセンターとしてメディア型のコンベンション、そういうものを誘致もしくは創造すると、物理的なにぎわいがそこに成立します。いわゆる見えない情報がにぎわいを発生し、見えるものに転化する場所としてもアイランドシティは適しているのではないかと思います。

【出口委員長】 ありがとうございます。テーマについてはよろしいですか。貫委員、ご説明をどうもありがとうございました。

それでは、次に進んでいきたいと思います。

いよいよ本題に入ります。先ほどご説明しましたように、本日のフリーディスカッションに入りたいと思います。その前に一つ、市の事務局に資料を一部、用意していただいておりますが、アイランドシティにおける税収見込み額の推移、港湾局推計というグラフを用意していただきました。

赤いファイルの資料がお手元にございますけれども、前回、第4回目の資料の43ページ目のスライドを見ていただくとおわかりのように、埋立地から得られる税収という参考資料についての説明と議論がございました。この前回の資料ではシーサイドももちから上がる市税が年間約56億円なのに対して、アイランドシティで現時点で上がる税収が市税だけで年間10億円となつてございました。これがそのまま推移していくように取られかねないものですから、もったきちんとした推計を出していただけないかと私から事務局にお願いいたしました。本日、1枚物の資料を事務局に用意していただいたので、前回の資料を補足する形で事務局からご説明いただきまして、それから本題に入りたいと思います。簡単にご説明していただけますか。

【事務局（駒田）】 港湾局の駒田です。今、お手元にあるグラフに青い線と緑の線の二つがございます。これは、このグラフの下にもございますけれども、平成21年の12月に策定した現計画です。その際の税目といたしましては、三税——固定資産税、都市計画税、個人市民税・事業所税です。この前のフォーラムの資料では法人市民税も入っていたかと思えますけれども、先々のことなものですからそこまで見込んでいません。三税について見込んだものです。それが青い線になります。

この間、非常に経済状況も厳しさを増しております。そのため、少し幅を持たせた推計も必要ではないか。この緑の線、例えば路線価は固定資産税の土地の税収に影響してきます。また容積率は建物の税収にも影響してくるわけですが、ここを少し厳し目にしています。例えば、固定資産税の路線価については、今後、上昇しないと少し厳し目に見込んでいる、幅を持たせたグラフとしてごらんいただきたいと思います。

今の計画では大体、平成40年ぐらい初頭には、まちがほぼでき上がる計画ですので、その厳し目の税収で見ますと、およそ70億円程度の税収がこの三税で見込めるのではないかという試算です。

以上です。

【出口委員長】 どうもありがとうございました。

ということで、今回、やや厳し目に税収見込みを再推計されたということですが、それによりますとアイランドシティ完成時には市税だけで年間70億円ほどの税収が見込める開発であるということです。ただ、これはきちんとしたまちづくりを進めていかないと、当然、こういった税収は見込めないので、おそらくこのフォーラムで求められているのは、そのためにはどのような方針や戦略でこのまちをつくっていくべきかについての議論と思

いますので、参考にしていただければと思います。

何かご質問はありますか。よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

【出口委員長】 もし後ほど、またありましたら、後ほど追加でお願いしたいと思いません。

それでは、本題に入って、フリーディスカッションの時間をとりたいと思います。今日は予定では3時間ということで4時半まで時間をとっております。早いもので5回目を迎えており、かなり皆さんから多くの意見を出していただいたと思っておりますので、ご意見がもしなければ早目に終わりたいと思えますし、もし長引く場合は、途中で休憩等を入れて、リフレッシュする時間を取りたいと思います。

今回のフリーディスカッションに当たり、このフォーラムはもう1回、12月3日に予定している回が残っておりますが、いよいよ今回と次回とでまとめに入っていきたいと思っております。その点は前回、終了時に私のほうで宣言させていただきました。そのまとめに当たって、私のほうで議事録を再読いたしまして皆様のご意見を整理いたしました。整理するに当たっては、事務局にもお手伝いいただきました。かなりいろいろと多岐にわたるご意見を網羅的にいただきましたが、その整理をし、更にできる限り一つ筋の通ったシナリオでもって提言としてまとめていきたいと思っております。そのたたき台をつくらせていただきましたので、これに基づいて、今日のご議論いただければと思っております。よろしく申し上げます。

時間も限られておりますので、全体を詳細に読み上げることは私からはいたしません、事前にお配りさせていただきましたので、かいつまんで骨子の部分を説明し、皆さまからのご意見をいただきたいと思っております。

まず、表紙の部分、タイトルですが、「福岡の未来を先導するアイランドシティへ」としています。福岡の未来を先導するアイランドシティになってほしいという思いが皆様からひしひしと感じられましたので、このようなタイトルをつけさせていただきました。あくまでも仮のタイトルですので、これについても何かご意見があれば出してください。英語のタイトルを入れています。森委員から福岡アイランドシティ——F I Cというイニシャルの提案をいただきましたが、その帰り際、飛行機に乗っていて、F I Cに何かいい意味を含ませられないかなと思ひ、F I Cをイニシャルとする英文のサブタイトルをつけさせていただきました。

それから、1枚めくっていただきまして、まず基本的な考え方をここで整理しています。福岡市の事務局の方のご説明を過去4回にわたってお聞きしまして、かなり厳しい現状認識を共有できたと思います。ただ、本日の資料にもありましたが、アイランドシティは将来の資産や税収をつくっていくプロジェクトであるという見方をきちんと持ち、この閉塞した状況を打破していかなければいけない、そういう強い思いを皆さまから発言していただきました。その考え方を1番目の「次世代の資産を創り、活かす「好循環」への転換」という見出しにして簡潔に整理しております。ダイアグラムを入れておりますけれども、左側が現在、福岡市、あるいはこれは地方都市全体かもしれませんが、陥りつつある悪循環の構図です。右側がそれを好循環させていく、好循環を生み出した後のイメージの構図です。

アイランドシティは、こういった好循環を生み出す、将来の税収や資産を生み出すエンジンとしてきちんと位置づけるべきとの考えの上で、きちんとした効果的な先行投資を進めていく必要があることをここで整理しております。

ただ、そのときに何でもかんでも開発するというのではなくて、3番目にまとめておりますように、アイランドシティの強みを生かした効果的な事業を展開していただきたいということですね。ですから、このフォーラムでも事務局に整理していただいた、あるいは皆さまからも出していただきましたアイランドシティの強みをここに簡単に簡潔に整理しております。その強みを生かしたプロジェクトを展開していただきたい。

それから4番目は、当然、公共でできることには限界がありますので、民の力を積極的に引き出すような効果的な施策を打っていただきたい。おそらくそのためには公共交通の整備でありますとか、さまざまなインフラ整備を進めていかないとならないと思います。あるいは、企業の初期投資の負担が非常に大きいというご意見もございました。そういったものを軽減するための効果的な施策を打ち出し、民の力を積極的に引き出していただきたい、そういう基本的な考え方をここにまとめています。

それから、次の3ページ目です。ここは苦労したところなんです。アイランドシティ未来フォーラムですので、皆様の思いやあるいはアイデアを未来像として整理して提言書として打ち出していかなければいけません。非常に大ざっぱであるかもしれませんが、七つの未来像に整理しております。

これらは、あくまでも市民の観点、あるいはそれぞれの専門家の観点から見た未来像であり、これからのまちづくりをけん引していくための施設などのアイデアを本日もいただ

きました。それらも含めていかなければいけないと思います。そういったアイデアやご意見をカテゴリーに分けていくと、大きく七つぐらいの未来像にまとめられるのではないかと考えております。

それに、先ほど前段で整理したアイランドシティの未来をつくる基本的な考え方を加味しまして、この未来像を実現していくための方針を大きく四つにまとめています。更にその方針を実現するための戦略と方策として、こうすることによって、こういうことをしていくべきであるという形で戦略の1から4を整理しております。

4ページ目以降にその中身を簡潔にまとめております。最初の未来像の1が、アジアの成長・活力・ダイナミズムを取り込むプラットフォームとしての未来像であること。これについては、この会でも、コンテナターミナルの強化のご意見、あるいはデータセンター機能を持つコンベンションセンターというさまざまなご意見をいただきました。そういったアジアとのゲートウェイとしての役割を果たすような未来像を1番目に打ち出しています。

それから2番目は、知的な活動が集積して、国際的に活躍する人材を育成・創出する場ということです。高等教育機関とか、知的創造産業が集積することによって、ここから人材が集まり、あるいは育てていく場になってほしいという思いがここの中に込められています。

それから、次の5ページ目です。未来像の3、おしゃれで文化的なライフスタイルと景観が作り出す「洗練されたアジア」です。これは、伊東先生からのアイデアを拝借しております。伊東先生から打ち出された「洗練されたアジア」、私はこの言葉を非常に気に入っています。アジアというところごちゃごちゃした非常に喧騒なイメージがあるのではないかと思います。もっとおしゃれなアジアのイメージです。おしゃれで文化的なライフスタイルと景観が作り出していくイメージで、美しい並木道が作り出す、あるいは女性の方がおしゃれをして歩けるようなまちになってほしいという思いが込められています。

未来像の4番目は、博多湾の豊かな自然と共生した「スマートタウン」ということです。当然のことながら、博多湾の自然環境の保全にも最大限、配慮しながら、この都市は開発を進めていくわけです。そのときに、先ほど中村様からご説明いただきましたスマートエナジーといった技術、あるいは新しいシステムを導入しながら、省エネルギー、あるいは創エネルギーのスマートタウンです。先ほどスマート・コミュニティというキーワードがありましたが、もしかしたらここはそちらに変えてもいいかもしれません。そういったま

ちとして先進的な取り組みをしていただきたいというのが未来像の4番です。

未来像の5番目は、高度医療に支えられスポーツやレクレーションを楽しんで暮らす健康都市。これは、先ほど滝本委員からご説明がありました健康未来都市、あるいはスマート・ウェルネス・シティといったコンセプトもこの中に含まれるかと思います。

未来像の6番目は、便利な公共交通システムで移動がしやすく、安全で安心して暮らせる街ということです。こちらは、大庭委員からバス交通の話をいただきましたが、本当に便利なバス交通などが導入されて、移動がしやすく、なおかつ安全安心なまちという思いが込められています。

未来像7番目は、さまざまな人が集い、地域の主体的な活動が盛んで活気にあふれたコミュニティになってほしいという思いの未来像です。これは、地元委員の代表の方からも再三にわたって主張していただきました。まちのブランド化を進めて、是非、福岡を代表するようなモデル的なコミュニティになってほしいという思いがここに込められています。

次の7ページ目以降は、こういった未来像の実現に向けた方針であり、基本的な考え方に基づいた方針です。

方針の1は、21世紀の展望と福岡の将来を見据えたアイランドシティの「位置づけ」を明確にするということです。本日はご欠席ですが、この辺は第1回目、第2回目に甲斐委員や青木委員からかなり強調して出していただいた意見を踏まえてつくっております。おそらく震災の影響もありますが、これから日本の国土計画を大きく見直すことになるだろうと思います。そういったときに日本海側、あるいは九州地域が更にクローズアップされることになると思います。そう考えた場合、このアイランドシティ、あるいは福岡市の位置づけをもう一度見直し、積極的に位置づけ直す必要があります。そういった観点からこれからの社会の展望と福岡の将来を見据えた上でアイランドシティの位置づけを明確にする、あるいは明確化するという方針を最初に打ち出しております。

ちなみに、ページの構成としまして、下のページには関連する委員の皆様からいただいた意見や思いを議事録から抜き出す形で記載しております。それから、中の文章も方針の内容をやや簡潔に説明するような文章と、方針を進めるべきことを箇条書きで整理しております。

それから、8ページ目が方針の2ですが、個性的な未来を形づくる「先導的テーマ」に基づきまちの骨格を形成するというものです。これは伊東委員、あるいは海老井委員からもお話をいただきました。個性的な魅力を形づくるテーマがまず必要であるということ

す。普通の都市計画的な発想のゾーニングとは違い、テーマでくくっていかなければいけないだろうとの考え方です。具体的なテーマはこれからの協議になろうかと思いますが、いただいた意見の中から、こういった観点のテーマが必要だろうということをこの下に列挙しております。

それから、9ページ目です。方針の3は、主にみなとづくりエリアに該当する話になるかと思いますが。あるいは、一部、まちづくりエリアにも該当する話になるかと思いますが。港湾・物流機能が核となり都市活力を生み出す「複合用途」で街区・地区を構成するという方針です。単なる港湾・物流機能を整備するだけではなく、それを核として、周辺にそれを活用していくような複合用途を導入し、都市活力を生み出していく事業を展開していただきたいという方針がここにうたわれております。

10ページ目が方針の4です。住みたくなる都市のブランド化を目指し、ICならではの環境価値を持つまちを育てるという方針です。これは、村田委員、森委員から再三にわたってご主張いただきました。特に、人工島というネガティブなイメージを払拭すべきである、しなければいけないと。それだけではなくて、さらにアイランドシティのイメージ向上によって、ブランド化を進めていくということですね。アイランドシティならではの価値を持った居住環境を持つまちに育てていかなければいけないといった思いをここに込めております。

それから、次のページからがその方針に基づく戦略です。概ね、方針と戦略が1対1で対応するようにつくったつもりではありますが、もしかしたら1対多の関係で対応しているかもしれません。一部、そう読み取れる部分もございます。

戦略の1は、効果的な公共投資により都市の建設を積極的に先導するという戦略です。これまで公共投資は、幾分、やや遠慮がちに進められていた印象がありますが、将来の税収の財源、あるいは資本をつくる立場に立ち、その位置づけを明確にするという条件の下、効果的な公共投資をしていただき、都市の建設を積極的に先導するべきであるということです。そのための具体的な施策として、委員の皆さまから挙げていただいたご意見をここに箇条書きでまとめてございます。第2回目に土屋委員から具体的なレジュメを出していただきまして、施設誘致のご意見をいただきました。そういったものをこちらに整理させていただいています。

戦略の2は、土地利用推進策の効果的な投入により民間開発を誘導するという戦略です。進出する民間事業者にとって土地代が高いとか、あるいは初期投資負担のコストが非常に

高いのではないかというご意見がございました。そういったことを踏まえて、効果的なインセンティブの制度を導入したり、あるいは初期投資を軽減するための措置を投入して民間開発を誘導していくという戦略をここに整理してございます。

13ページ目が戦略の3です。これは、みなとづくりとまちづくりの融合とプロジェクト相互の相乗効果を図るという戦略です。みなとづくりとまちづくり、それぞれの間に明確な境界線を引いて独立して事業を進めるのではなくて、アイランドシティの強みを生かすという基本的な考え方と関連して、みなとづくりとまちづくりを融合させていく考え方はです。港とまちという明確な区分をするのではなく、お互いに利用し合う、あるいは相乗効果をもたらすようなプロジェクトを仕立て上げていく発想です。また、プロジェクト相互の相乗効果を図ることを常に念頭に置きながらプロジェクトを推進していく、あるいは都市開発を誘導していくという戦略を3番目に入れております。

例えば、青果市場をつくるような計画がみなとづくりエリアにあります。それを場外市場、あるいはマルシェ（マーケットや朝市）、あるいはフードパークと組み合わせることによって相乗効果が生まれ、新しい集客機能が生まれてくるというアイデアをいただきました。そういったことをこの戦略の中に組み込んでおります。

それから、14ページ目が戦略の最後です。公民学連携拠点の設置と組織的活動により生き生きとしたまちをデザインするという戦略です。これは本日、私がパンフレットで簡単にご説明しましたが、柏の葉と類似点もかなりあるものですから、柏の葉をモデルにしながら、公民学連携のアーバンデザインセンターといった拠点を是非アイランドシティにも設置していただくことを掲げています。

今も既にツール・ド・フクオカなど、さまざまな活動がアイランドシティで行われております。本日は長沼委員はご欠席ですが、JCなどが中心になり、さまざまな活動が行われております。そういった活動がばらばらに独立して行われのではなく、まとまって相乗効果をもたらすような組織的活動により、生き生きとしたまちを育てていく、あるいはまちをデザインしていく戦略をこちらに掲げております。

この戦略の中には、人工島という負のイメージを払拭するための取り組み、あるいはさらに一歩進めて新しい居住環境の付加価値を高めて、アイランドシティのブランド化を進めていくことも含んでいます。公民学連携拠点であるアーバンデザインセンターはそういう機能や役割を果たすものとして位置づけられるわけです。そういった願いもこの戦略の中に込めているつもりです。



15ページ目は最後のあとがきのものです。最終回にうまくまとまりましたら、高島市長にご提言させていただきますが、その後は、ぜひこの提言書の内容を組みとっていただきながら、施策によって行政内の関連部局の横断的、総合的な取り組みによりまして、市長のリーダーシップのもと、国、県とも連携しながら、アイランドシティの事業を効果的にうまく推進していただきたいという願いを「あとがき」に込めております。

あとは、参考資料です。

長くなって申しわけありませんが、皆様の意見、思いをできるだけ網羅し、なおかつ一つの筋の通ったシナリオとして仕立て上げていくことに配慮しながらたたき台としてまとめさせていただきました。私もこれにこだわるつもりでは決してございません。是非、本日も皆様から忌憚ないご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

どうでしょうか。もし、今、ご質問等あれば受けませんが。休憩を入れたほうがよろしいですか。事務局、休憩でよろしいですか。では、休憩を入れます。何時までにしましょうか。10分間でよろしいですか。では、今、私の手元の時計は3時ですが、3時10分まで休憩を入れさせていただきます。その後はご意見等を賜りたいと思えます。よろしくお願いたします。

( 休 憩 )

【出口委員長】 それでは、予定の時間を過ぎましたので、再開させていただきます。

先ほど、私からたたき台を簡潔に説明させていただきました。委員の皆様には事前に配付させていただきましたので、よろしければ、こちらに基づいてご意見をいただきたいと思えます。あるいは、ここに書かれていない内容について新たなご意見等あれば、是非、本日出していただきたいと思っております。どんな観点からでも結構ですので、よろしくお願いたします。

大庭委員、どうぞ。

【大庭委員】 委員長、どうもありがとうございました。今ずっとご説明を受けて、最初の第1回目の現地視察からずっと話し合いを重ねていくうちに、正直言ってどうなることだろうかと思っていました。とにかくどこから手をつけていいかわかりませんでした。委員長、ほんとうにありがとうございました。順を追ってこういう形にまとめていただいてほんとうにありがたいと思えます。私は、来月は仕事で欠席させていただきますので、

今日がもう最後になります。まず、感謝の言葉を委員長にお伝えしておきます。私の今後の仕事としては、ほんとうにささやかながらトータルのイメージアップの広報活動を少しずつさせていただきます。

皆さんにお配りしたのは、私が主宰しておりますNPO博多の風の「風人」という機関紙なんです。この中に書いておりますように、11月21日から24日まで、夜遅い番組なんですけれども、森委員にゲストとして出ていただいて、最初から話しておりますいわゆる人工島というイメージをできる限り払拭して、何とかプラスイメージにするお手伝いをしたいと思います。前回、4日間、しゃべったんですけれども、今度は森委員に来ていただきます。

ただ、今日のお話もそうなんですけれども、委員長のお話でつながっていく部分というのが随分ある。もちろん、理想を追いながら、財政も厳しい折、現実に合わせて中でどれだけやれるか。ほかのマスコミへもやっぱりプラスイメージの中で扱ってくれと働きかけています。たまたま森委員のところには毎日新聞の野沢報道部長が住んでおりますので、この前、話しました。中途半端な形ではなくてきっちりやってくれと言っております。これからもほかの方にもお願いしながら、プラスイメージで福岡市民の夢をかなえるためのアイランドシティの事業に、これからも私なりにささやかながら参画させていただきたいと思います。ありがとうございました。

【出口委員長】 どうもありがとうございます。次回、最終回を予定していますけれども、大庭委員さんがいらっしゃらないのは非常に寂しい限りです。

【大庭委員】 済みません。

【出口委員長】 どうもありがとうございます。大庭委員にも、バス交通の話など、いろいろ積極的にご発言いただきました。それを提言の中でも強く打ち出させていただきました。ありがとうございます。

それから、今ご発言いただきましたように、やはり私どももこれから提言を出して一仕事終わった感じにならずに、引き続きアイランドシティのサポーターなり、お手伝いなりを進めていただければと思っております。再スタートと言うと失礼かもしれませんが、提言を新たな次のステップへの土台にさせていただければと思います。そういう位置づけにさせていただきたいと思っております。

他にいかがでしょうか。どうぞ、村田委員。

【村田委員】 私からは三つ、お話しさせていただきたいと思っております。一つは、ま

ず愛称というか、まちの名称の問題ですね。今、案として浮かんでいる福岡アイランドシティです。これについていいところ、悪いところ、それぞれありながらも現状ではなかなかいい案じゃないかなと個人的に思っているところです。その名前が正式決定したものかについては、そういうものではないという感じで前回は終えているところです。

今後、これをどうしていくかについてです。話は変わりますが、アイランドシティの外周緑地のあたりから香住ヶ丘に行くのに、新しい人道橋ができていますね。私はその橋の名前を決める選定委員会に入っているんですけど、市民から公募したところ、1,500ぐらいの応募がありました。それに目を通して、選んでいく作業を今、しています。

福岡市民全体にもっとアイランドシティに愛着を持ってもらいたい。それと、福岡アイランドシティ——F I Cもいいんですけど、もう少しいいアイデアもあるんじゃないか。少ない数の人間で考えるより、たくさん的人数で考えたほうがもっとすてきなものができて、みんながもっともっと納得できるものができるんじゃないかなと思っています。そのように福岡市民全体から愛称を公募するという案を提案させてもらっています。

二つ目の話です。戦略4のところにかかわるまちのデザインの話です。今さら蒸し返すなどと言われるかもしれないんですけど、もともと福岡市がデザインするときに宮崎駿さんのトトロの森構想に乗かってやりました。例えば、照葉の森の公園はもともとトトロの森という名前になる予定だったんですけども、途中まで話が続いていて、なぜか没になったんですね。没になった詳しい最終的な経緯は知らないんですけど、まちのブランド化やイメージ化とかのために、それがもし復活できたらすごく手っ取り早く、比較的低予算でみんなが盛り上がるんじゃないかなと。全国的なブランドとしては、例えば鬼太郎の町とかもありますよね。そういうわかりやすいアイランドシティにぴったりのテーマでいけるんじゃないかなと。それが提案です。

【出口委員長】 今、2点、言われましたけれども。

【村田委員】 3点……。

【出口委員長】 よろしいですか。それでは後ほど、もしまた思い出したらお願いします。

関連して、トコ委員よろしいですか。では、よろしくをお願いします。

【トコ委員】 済みません。出口委員長、時間のない中、こんなにまとめていただきありがとうございました。

さっきの村田委員の話でも、人工島という名称がとても大きな問題になっております。

人工島という名前のマイナスイメージをやっぱり書かれていました。私たちはアイランドシティの未来フォーラムの委員会であり、そして皆さんがつくってくださる資料にも一言も人工島ということは書かれていないんですね。市役所の方たちも全員がアイランドシティと呼んでいる。それなのになぜか、前回の第4回の未来フォーラムの翌日の新聞には、見出しに人工島とあるんですよ。私たちは人工島のことなんか話し合っていないんです。アイランドシティのことを話し合ったんです。確かに、字数としては「人工島」にしたほうが文字が少なくて済むかもしれないけれども、それは人工島と呼ばないんだよということをマスコミに対して公式に言ってほしい。

例えばタレントさんでも名前を変えて、こういう名前にしましたと言ったら、以前の名前を絶対に使ったりしないじゃないですか。ジャニーズで木村拓哉をキムタクと縮めて使うのはいけなかったり、ちゃんと決まりがあるんですね。だから、市役所でも、申しわけないけれどもこれからアイランドシティと書いていただけませんかというお願い、依頼をしていくことも必要なんじゃないか。次の日、新聞を見てショックな見出しだったので、そう思いました。

**【出口委員長】** どうもありがとうございます。既にマスコミへの申し入れはされたものではなかったですか。していないですか。

**【副市長（山崎）】** していないです。

**【出口委員長】** していないですか。そうですか。

**【副市長（山崎）】** 公式な形での申し入れをマスコミ各社、あるいは市政クラブに対してしているわけではありませんが、こういう議論がこのフォーラムでありますので、それを踏まえて意見交換といいますか、なるべく正式な名称であるアイランドシティと使っていただきたいという意思表示をマスコミの方々に対してしたことがあります。それは正式な形というよりは、事実上のご説明をするという中でのやりとりのレベルにとまっております。この未来フォーラムの中でご意見がそういう形であれば、私どもも市長とも相談いたしまして、プレス、マスコミに対しましての対応を正式に考えることも検討したいと思います。

**【出口委員長】** ありがとうございます。

今のご提案に関連した話でよろしいですか。お願いします。

**【海老井委員】** 一番ここの最初の会議のとき、人工島というマイナスイメージを、この会を契機に払拭してもらいたいという意見を申し上げました。ここにいる私たちはしょ

っちゅう使っている「アイランドシティ」になっているんですけども、一般的にはまだ人工島のことについて話し合っているんじゃないか、人工島はいろいろと問題があったところだからなというイメージがまだあると思うんですよね。ですから、アイランドシティ、あるいは別の名前にして、すっかりもう人工島ではないんだ、福岡、アジアを先導するような新しい都市をつくっていくんだということを、この提言を機会に定着させていくという方向で考えたほうがいいのかと思います。

【出口委員長】 ありがとうございます。今のお話、2点、村田委員からご発言がございました。まず、愛称、名称の問題ですね。人工島というマイナスイメージを伴う呼び名はやめていただきたいということ、これは以前からおっしゃっていたことですね。

実際に新しい名称をつくり出すに当たって、そのプロセスも大事ではないのかということで、公募とか、あるいは一つのイベントとして戦略的に取り組むというアイデアをいただきました。

それから、先ほどのトトロの話は公園施設の話でしょうか。テーマパーク的な発想で、公園名や通り名とか、そういう施設の愛称をあわせて考え直すということですか。

【村田委員】 おそらく住宅地も含めてトトロのまちみたいな感じで最初は多分、進んでいたと思うんですよね。そんな感じですか。テーマパークをつくるわけではなくて、まち全体のイメージですね。だから、おっしゃるとおり、通りの名称であったり、何か小さいモニュメントがあったりとか、そんな雰囲気でも盛り上がれたらなというイメージです。

【出口委員長】 わかりました。

ほかに関連してご意見、ございますか。よろしいですか。

私のほうで整理いたします。客観的に見ると、この呼び名に関しては、地域の住所として香椎照葉という非常に立派な名称があります。私、照葉という名称は非常にいい名前と思うんですよね。東京から見ても非常に珍しい名前ですし、インパクトがあると思います。これは、あくまでも住宅地の地区の名称です。住宅地を中心とした地区の名称として非常に立派な名前があるので、住宅地を呼ぶ場合は、私は照葉と呼んでいただいていた方がいいと思います。

また、400ヘクタールあるアイランドシティ全体に対しての呼称ですね。要するに、このプロジェクトを総称した呼称が人工島、あるいはアイランドシティと呼ばれているので、合理的に見て大きくはその2段階の呼称の役割をきちんと整理する必要があると思います。

全体の呼称に関しては、トコ委員から言われたようにマスコミの方にもきちんと協力していただくようお願いしてはどうだろうかということです。それは進めていただくとしても、それでも書かれるかもしれませんが、明日の新聞が楽しみだという……。いや、こうした話はやめておきましょう。

ただ、おそらくアイランドシティという呼称がマスコミの方からしてみると活字にするには非常に長いという問題もあると思います。それで、人工島を使われているとも思います。新しい呼称は、ぜひその辺にも配慮する必要があるかと思います。

それから、名称の問題は落とし穴があって、では名前だけつけ変えればほんとうに根本的な問題が解決するのかという問題があります。あくまでも名前ですので、ある意味では表層的な問題とも言えるのではないかと思います。本当にアイランドシティが真に良い意味で皆様から愛情を込めて呼ばれ、地元の方がプライドを持ってその名前を呼べるようになるためには、内実が伴っていかないといけないと思うんです。本当に良い町になれば、みんなその名前で呼ぶと思うんです。ですから、そこは地元の方にも頑張っていて、我々もサポートして、周りの方がうらやましがるような優れた環境をつくり出せば、おのずとその名前でみんな敬意を払って呼ぶと思うんですね。

世の中にはいたずらっ子がいて、そういう名前で呼んでくれるなと子どもが泣いて叫んでも、結局いじめっ子は依然としてそういう名前で呼んだりするわけです。決してマスコミをいじめっ子と言っているわけではないですよ。済みません。要するに、マスコミの責任ではないと私は思います。そこも我々はきちんと理解しておかなければいけなくて、内実がきちんと伴った本当に素晴らしいコンセプトの名称で、その名称の下に素晴らしいまちづくりをしていけば、10年後、20年後にきちんと定着するような名前になっていくと思います。その点はこのフォーラムの提言の中でも、きちんと整理していきたいと思っております。そういうことでよろしいですか。

はい、どうぞ。

**【伊東委員】** 今、委員長が言われたとおりだと思うんです。何で人工島という名前が嫌なのか、特に日本人は嫌なのかというと、人工というものに対する考え方が違うんだと思うんですよね。例えば、西洋で人工島といったらそれほど反感を覚えられるかということ、そうではない。出口先生もよくご存じのように、西洋の都市概念の一つの象徴と言われて、ウルビーノにあるピエロ・デラ・フランチェスカの「理想都市」の絵には人工のものしか描かれていないんです。西洋では人工というのは決して否定的なものじゃない。

人間は神から能力を授かってそれを実現していく生き物です。何で日本人がそれに反発を感じるかというと、人間だけではない、それを包む自然というものが究極な存在だということなんでしょう。しかし、自然というものはマネジメントしにくくて、どうまとめていくかが非常に難しいものだと思います。

これは、卵が先か、鶏が先かという話で、例えばまだ内実がはっきり見えていないときに新たな名前を模索して、逆にまたそれがずれてしまったらどうするのか。だから、今の段階でアイランドシティという名前がついているのであれば、中が確定していない段階でそれを無理やり名づけ直すことは難しいんじゃないか。しかし、そうするとまた人工島という名前が野放しになっていく。だから、早目にテーマをきちんと策定することが大事です。

出口先生に取り上げていただいた「洗練されたアジア」というフレーズですけれども、これは1年ぐらい前に考えたものです。アジアに対してのイメージを払拭することと、アジアの実態をここで表現していく。今、世界の感覚をリードしているのは実際にはアジアで、携帯のデザインとか、さまざまな先端的なデザインはアジアで生産されていますし、スマート・テクノロジーのような最先端のものもアジアで生産されることが多くなってきています。また、この洗練されたアジアには、ソフィスティケートとスマートという両方の意味を込めてあって、そういう意味で、このアイランドシティというのは自然感をベースにして、人間はしかし、それでも最先端にすることができるということを表現するような都市として福岡が発信することが大事なことだと思うんです。

僕は九州の工芸を紹介する展覧会をイタリアでやってきて、ロンドンを回って帰ってきて、昨日まで東北でボランティアをやっていたんです。それで、究極の二つの都市の姿を見て、アイランドシティで一生懸命何かの実験をすることが非常に大事だと思ったのは、例えばロンドン是非常に今、着目されるべきまちでありますし、またオリンピックを控えて着々と都市計画が進んでいるところです。あれだけ古い都市が機能を変換し、また読みかえることによって、とても近代的な都市に生まれ変わりつつある。今までのロンドンというイメージを払拭して、それこそスマートなロンドン、一種、世界をリードするロンドンというイメージをつくりつつある。その中で、例えば中心部のシティからテート・モダン美術館を結ぶ人が歩くだけの橋をハイデザインな建設をして、それが視覚的にもロンドンのイメージを変えていっている。そういう一つ一つのデザインのポリシーがまちを性格づけをしていくということであれば、逆にテーマともう一つ、出口委員長が言われたよう

な柏の葉のように、デザインの基本形、そしてそのルールを早く設定しないと、幾ら言ってもスマートには見えないアジアになってしまうのではないかと心配しています。

もう一つは、昨日まで陸前高田と大船渡というところでボランティアをされていて、被災地の沿岸部には全く何もありませんよね。360度、何も無い世界の中にぽつんといました。逆に言えば、ここにも新たなひな形が必要で、そのひな形が見つからないからこういうふうになっているんだろうなと思うと、東北の復興の問題を考え、東北をどのような町にするかことが、日本人の大きな課題であるならば、人工島でこれだけのことを話して、またアジアという将来の文化圏、文明圏とどう融合させながら日本をつくっていくかというときに、このアイランドシティで考えていることが、これからの日本の端緒になってほしいし、それがメッセージとして打ち出せるようになれば、環境などのさまざまな問題がもっと大きなことにつながって、このまちづくりの重要性が認識されるんじゃないかなと思っています。

出口先生のこのまとめは、非常にそういう意味では示唆に富んでいると思います。これほど働かれる委員長というのは、僕は初めて見ました。どうもありがとうございます。

**【出口委員長】** ありがとうございます。確かに都市をつくっていく哲学みたいなものが新しい名称に込められていく必要があるかと思いますね。

話は変わりますが、私、ボストンに住んでいた時期があるんです。ボストンにチャールズリバーという川があります。ボストンは埋立地なんですね。150年ぐらい前に埋め立てられた埋立地が、バックベイという高級住宅地になっていて、埋め立てた残りの水辺がチャールズリバーという川になっているんです。埋立てから150年経って完全に自然と一体となっているんですね。人工的な埋立地に見えないんです。最終的には100年ぐらいかけて、アイランドシティは人工と自然とが融合していく、自然に返っていくんだといった哲学を持った都市になっていただきたいという気がいたしました。そういう都市づくりの哲学を是非入れ込んでいただきたい。そういう意味でもアジアのモデルにしていきたいと思います。市役所の方は哲学という言葉は非常に苦手かもしれませんが、是非一緒に考えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それから2点目、村田委員が言われた施設の話ですが、アイランドシティの道路は東1号線とか、何号線とか番号が振ってあるだけですね。道路や公園にも名前をつけていただく必要があるかと思います。多くの日本の道路には名前がないんです。ここ数年、博多と天神では、道路に名前をつけようという取り組みをやっています。ですから、アイランド



シティも是非、名なしの道路がないように、道路や公園、あるいはちょっとした街角にいろいろな思いを込めた名前をつけていただいたり、それを住民の方々と一緒に考えていただいたりすると、更に新しいまちづくり活動につながっていくのではないかと考えています。

海外に行くと全ての通りに名前があって、よく人の名前がついていたりしますよね。日本はそういうのがほとんどないんですよね。是非、そういう取り組みも進めていただければと思います。それがまた、村田委員がおっしゃっていたようなテーマと首尾一貫したものになるといいと思います。

どうぞ、土屋委員。

【土屋委員】　　じゃあ、1点だけ。私も最初、大庭委員と同じくこれは6回ぐらいではまとまらないんじゃないかなと思っていました。ほんとうに委員長の取りまとめ力には感服しております。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

【土屋委員】　　ほとんどの皆さん方の意見が反映されているんじゃないかと思います。ただ、1点だけ懸念しますのは、この委員会には非常に未来志向の方ばかりが参加してフォーカスできたと思うんですが、多分、公開されると、この提言書を見られる方の中にはネガティブな方もいらっしゃるし、一般の市民の方には、先ほどの人工島みたいなイメージを持ってある方がたくさんいらっしゃると思います。そこで、いきなりアイランドシティの未来像という打ち出しで入っていけるかどうか、若干、私は心配しています。ですから、参考資料でいいと思いますけれども、福岡の持てる強みとか、アジアにおける位置づけとか、あるいは環境問題に対してこういうふうに行っていくべきみたいな総合的なバックグラウンドのようなものを織り込んだほうが、こっちのほうに誘導できるのかなという気がいたしました。ご参考までに検討してください。

【出口委員長】　　ありがとうございます。現状の位置づけや考え方ということですね。。

【土屋委員】　　そうです。

【出口委員長】　　わかりました。おそらく福岡市では第9次総合計画をこれから策定されるということを以前、貞刈局長からご発言いただきました。第9次総合計画の中で、この提言の中でうたっているアイランドシティの位置づけや、新たな将来の社会を見据えた未来像をきちんと再構成していただく、あるいは新たに明確化していただくという意図で書いているつもりです。よろしいでしょうか。

【事務局（貞刈）】 はい。

【出口委員長】 そうすると今、土屋委員が言われたのは、現状の計画などにおけるとらえ方ですね。

【土屋委員】 そういうものの中から未来志向のものを選んで添付資料みたいな格好のものがあれば、このアイランドの問題にすっと入っていけるんじゃないかなという気がします。

【出口委員長】 わかりました。ありがとうございます。では、それは宿題として、事務局に整理をお願いいたします。

【事務局（貞刈）】 はい。

【出口委員長】 海老井委員、よろしいですか。次に森委員、お願いします。

【海老井委員】 私もこの提言書については、昨日、土屋委員とお会いすることがあって、もうできているようなものじゃないですかねとお話ししたんです。ほんとうにいろいろな意見がきれいにまとめられていて、しかも構成が非常にわかりやすくつくられています。いろいろな人のすべての意見がそれぞれのレベルの中で取り入れられていて、丁寧に整理し、骨格をつくっていただいたなとお礼申し上げます。

その上で少し気づいたところを言わせてください。まず、タイトルにしても、基本的な考え方にしても、そのとおりで思っただけでうなずいているところなんです、3ページの提言の構成、市民の夢と希望を担うアイランドシティの未来像を七つにまとめてありますが、上から見ていったときに一番最初、未来像1がアジアの成長・活力・ダイナミズムを取り込むプラットフォームは、多分、港湾機能が充実した拠点港という意味なんだろうと思うんですが、港という言葉がこの未来像の中に出てきていないんですよね。アイランドシティ事業の二本柱がみなとづくり、まちづくりですので、港という言葉が未来像の中に入れるべきではと感じました。

それから、4番目、博多湾の豊かな自然と共生したスマートタウンの1から7の中に環境という言葉が出てきていません。環境未来都市づくりということですのでずっと意見が出てきたと思いますので、環境という言葉はどこかで使ってほしいなと。使うとすれば4番目あたりに使えないのか。スマートタウンという言葉は、もうそのままとんとすっきりするんですけれども、もし使うとすれば環境未来都市スマートタウンか、あるいは先程出ましたスマート・コミュニティという言い方がいいのかと思います。

港と環境という言葉は、アイランドシティをあらわすキーワードだと思いますので、未

来像の中で使ったらどうかなと思います。

それから、提言の構成が、未来像、実現に向けた方針、さらにその方針に基づいた戦略、方策とずっと順を追って書かれていて、1枚でまとまっているのは非常にいいんですが、提言で一番実際的な力というか推進力になってもらいたいところが最後の戦略、方策のところにあるんじゃないかと思います。だから、この戦略、方策が強調されるように、もう少し全体の中で大きな位置を占めるような図柄にしたらどうかなと感じました。

それから、もう一つ、実は5ページ、未来像5のところ、ふくおか健康未来都市構想の実現が図られているまち、健康づくりを意識した活動とありますので、今ここで私がつけて加えて悪いんですけども、例えば高度な医療、それからスポーツ、レクリエーションといった健康都市であるならば、単に施設の充実だけではないと思うんです。そこにあるリハビリテーションセンターに来る、あるいは病院に来る人も多いと思うんですが、それだけじゃなくて、きれいなおしゃれな景観のいいまちで、住むことはできなくても、保養を兼ねて滞在してみたいなという宿泊滞在型の施設があってもいいんじゃないかなと改めて提案いたします。

【出口委員長】 貴重なご意見、どうもありがとうございます。未来像に「港」という言葉をあえて入れなかったのですが、考えてみます。どこに入れたらいいのかというのは今とっさに思いつかないのですが、場合によっては、未来像の中の文言でももう少しまく強調するような形も考えたいと思います。あるいは、今、何か対案がございますか。

【海老井委員】 いえいえ。つくってみたんですけども、もう少し考えたほうがいいかなと。まだここで言う段階じゃないかなと思っております。

【出口委員長】 そうですか。

【海老井委員】 それから、今気がついたんですが、4ページは市民の夢と希望を「叶える」になっていて、3ページのほうは「担う」になっているんですね。

【出口委員長】 ああ、そうですね。済みません、これは誤植ですね。文法的には「叶える」ということかと思いますが、確認して統一したいと思います。ありがとうございます。

今、4ページ目の未来像の記述の中には港の言葉を入れているのですが。半分ぐらいは港の話で、「災害に強い港」とか「機能を持つみなど」ということをかなり強調してはいます。このまま順調にいけば、おそらく港の整備は予定通りできると思うので、海老井委員がたしか第1回目にご発言されたように、プラットフォームというのは単なる港をつくる

だけではなくて、人がみなとづくり地区のほうに流れていくような仕掛けも含めて港を整備されてはどうかということです。私はそのご発言の印象が非常に強くて、それにも引きずられて「プラットフォーム」という言葉を使ったのですが、考えてみたいと思います。

それから、「環境」という言葉も非常に難しい言葉で、今、ご提案いただきましたので、整理をしてみたいと思います。

3 ページ目の構成では未来像ということを強調していますが、そもそも高島市長は、最初のごあいさつで、夢のある未来像を語っていただきたいということをおっしゃって会場を去られました。ただ、余りにも夢のある話ばかりしていても、私どもも実際にそれが実現されなければ、意味がないと言うと失礼かもしれませんが、徒労に終わってしまう可能性もあると思っております。皆さまは現実的なお話もかなりされていまして、それを戦略という方向でまとめました。実際にそれがどう実践されるのかということに皆さんのご関心や思いが非常に強いので、3 ページ目では戦略や方針をもう少し強調するような工夫をしてみたいと思います。それでよろしいですかね。

あと、宿泊滞在機能というか、そこに立ち寄ってとどまってみたいというような場にしたいということですね。では、そういう文言も未来像のⅢの中に入れ込むことを検討してみたいと思います。そんな対応でよろしいですか。

ほかに何かございますか。滝本委員、どうぞ。

**【滝本委員】** 非常によくまとまっていて、未来に希望を抱けるような内容だと思います。

その中で一つ強調したいと思うのは、新しいまちづくりというときに、住民の方々の生活スタイルをブランディングしていこうというのが一つのコンセプトになっているんですけども、そのときに学びの場といったコンセプトというのがあってもいいんじゃないのか。これだけ高度なレベルのものを維持し、外に示していこうという場合に、さっきの環境エネルギーについての最新の技術、それを生活の中にどうやって取り入れていくのかというようなこと、それは今のITのリテラシーみたいな話と同じことだと思います。

それと、健康とか医療とか、そういったものに対する意識の高さ、それから、文化的なものに対するセンスであるとか活動、そういったものに対して学びの場をつくっていくというのが必要なんじゃないか、それを戦略Ⅳの公民学連携の拠点の設置というところを含めて考えていくということもあるのかなという感じがいたします。今、生活スタイルのブランディング化みたいな言葉が結構見受けられたりするんですけども、それを維持する

ための活動ということかと思えます。

それから、柏の葉の資料を見てみましたときに、目標6の中に「エリアマネジメントの実施」というのが入っていて、これは非常に大事だなと思いました。新しい都市計画というのは、計画段階では行政がかなり関与しているいろいろなものをつくり込んでいくわけですが、人がかわったら、ともすれば計画とかコンセプトとかが少しずつ不連続になってしまうことがあるかと思えます。先を見越した専門的な知識を持った方、あるいはきちんと実現していただくマネジメントの手腕を持った人も含めて、マネジメントの母体というのをしっかりつくっていく必要がある。

よく見てみますと、戦略4の公民学連携拠点の設置というところにそういったことを考えているのかなとは思いました。「マネジメント」という言葉を入れるべきだと言い切る自信は私もないんですけども、そういった観点も非常に大事かなと思う次第です。

それから、さっき「トトロの森」のお話がありまして、非常にいいなと思いました。小さなエリアでいいと思うので、アイランドシティの中に、里山ビオトープというか、そういったものがあちこちでできるというのは非常に魅力的だと思います。

ざっと見た印象からすると非常にグレードに高い新興住宅という感じなんですけれども、最近、和のデザインというのは人気で、日本の伝統的なものを継承していくという要素もあるとすれば、もっとモダンな和風住宅的なものがあったらいいのかなと思えます。住宅メーカーの問題なのかもしれませんが、古民家を移設してモダンな和風住宅にリモデルするのが最近結構人気で、里山とあわせてそういったこともあっていいのかなという感じがいたします。

それから、柏の葉の構想の中に「農や食文化を育む空間」というのがありますが、小さなエリアでもいいので農といったものを中に入れてもいいのかなと。この前見学したときには畑があってほっとしたというか、結構そういったものも取り入れているのかなとは思ったんですけども、環境、エネルギー、里山、そういったものとあわせて農業というものも少し強調してもいいのかなという感じがいたします。

それから、前回言いそびれたんですけども、今、首都圏機能を分散していこう、特に西に持ってこようという動きがあります。関西なんかはかなり激しく主張しているんですけども、考えてみれば、福岡も2000年間、第2首都だったというような側面があるやに聞いています。行政の面と、それから企業誘致という面からもそうなんですけど、東からのリスク分散の受け入れ機能を真剣に考えていく必要があると思えます。そうじゃない

と、これだけのプロジェクトをうまく吸収できる全体のパイというのが増えないのではないか。それについては、出口委員長からも最後にご指摘があったかと思います。

それから、企業集積といったときに、都市型の高度サービスとかITといったものを想定すると、天神とか百道とか、ああいうところがしっかり埋まってからアイランドシティについて考えようという順番があると思うんですね。そういった面からも、全体のパイを増やしていかないとなかなか難しいのかなと思った次第です。

ただ、医療系とか福祉系の研究施設については、一部、こども病院とか専門のスポーツ医療施設なんかもできているようですので、そういったものに特化して誘致やサポートの機能をうまくつくりながらやっていくアプローチの方法もあるかなとも思いました。

以上です。

**【出口委員長】** どうもありがとうございました。多岐にわたっているいろいろ有意義なご指摘をいただきました。今ご指摘いただいた考え方を是非この中に取り込むようにしたいと思います。どう対応するのかは、今この場ではなかなか難しいので、宿題とさせていただいてよろしいですか。

確かに、「学びの場」というキーワード、それから「エリアマネジメント」というキーワードも今、非常にホットなトピックスですので、是非そういった考え方を入れ込んで先進モデルをつくっていただきたいと思います。福岡の場合は、特に天神と博多駅の周辺でエリアマネジメントの組織をつくっています。これは全国的に先進事例ですが、まだ住宅地におけるエリアマネジメントのモデルがないので、是非、今の照葉の地区の取り組みを更に発展させるようなエリアマネジメントを実現していただきたいと思います。

あと、里山づくりでありますとか、あるいは農業ですかね。

**【滝本委員】** はい。

**【出口委員長】** わかりました。

それから、冒頭、滝本委員から「スマート・ウェルネス・シティ」というお話をいただきました。あるいはトコ委員からは、今、ファミリー世帯が中心に住まっていますが、これから年代を経るに従って高齢者の方が増えてくるのかもしれないし、いろいろなタイプの方々が安心して健康に住んでいける街ということで、ユニバーサルデザインのモデルにさせていただくということが出ていました。そういったことも、是非必要かと思しますので、スマート・ウェルネス・シティのコンセプトも入れ込んで、できれば国の支援もいただきたいと思います。

はい、どうぞ。

【小俣委員】 私、4時に出ますので一言だけ。平成20年からアイランドシティに少し絡んでいまして、大きなお世話だったと思うんですが、最初、スロージョギングというのを福岡大学の田中先生なんかと一緒にやったりしました。それから住民の方といろいろ話をして、そして、出口先生と伊東先生と森田先生と私で1年間ぐらい、何回もやりましたよね。

【出口委員長】 はい。

【小俣委員】 それで、今回、ここに至って、ここまで出来ました。ただ、期限を切っただけでもってやるということがこれに少し入ればなという感じがします。

というのが、スーパーがないという話はずっと聞いていましたけれども、できません。駐車場がないという話もずっと聞いていましたけれども、3年間できません。何もできていないんですね。これでできると思うんですけども、市には優秀な方々がいらっしゃるし、あとはいつまでにやるかということです。それと、交付金とかが出たとしても、企業誘致は今、非常に厳しいじゃないですか。海外に出ていくほうが多いので、それをどうするかは、市長さんとか副市長さんとかのトップセールスが重要だと感じています。

一昨日これをずっと読んで、皆さんがおっしゃったように、ほんとうにびっくりしました。最初、土屋委員が提言書の紙を持ってこられて、「何回も来るけれども、多分だめだな」と私も思っていました。ただ、繰り返しますけれども、企業だったらいつまでにとということがなかったら通用しません。来年までに売ってしまうとか、2年間で全部やるということがないとだめじゃないかなという気がします。

【出口委員長】 ありがとうございます。大変重要なご指摘だと思います。

今のお話を聞いて思ったのですが、戦略のところ具体的な方策を載せていますので、この中で短期的な方策と中長期的な方策とを少し仕分けしてみます。これは私から市の方にいろいろご意見を伺ってみますけれども、もし短期にできそうな部分があれば、それは短期的な施策として少し前のほうへ移動して掲載させていただくという対応にさせていただきたいと思います。

それから、健康未来都市構想がいろいろ進んでいますが、私は健康的な活動の拠点もここに必要かと思いました。公園があり、グリーンベルトが整備されるということですが、スマート・ウェルネス・シティ構想とも関連して、スポーツの拠点的な施設がここには是非とも欲しいところです。これは公共施設になると思いますが、民間の資金を使いながらP

F I などをつくってもいいと思います。既に福岡市の中には老朽化している体育館が幾つもございますし、九電記念体育館も確か期限つきでの利用ではなかったかと思っておりますので、そういったものの再整備のタイミングをうまくとらえて、スマート・ウェルネス・シティを推進していくため、スポーツやレクリエーションの拠点施設をここにつくっていただくことも必要かと思っております。前回の資料で老朽化した施設の整備の必要性ということが出ていましたから、是非それと連動させるような形でこの中に含めていってほしいと思っております。

何かございますか。森委員、どうぞ。

**【森委員】** 今日ほんとうに立派にまとめていただきましてありがとうございます。今、委員長がおっしゃったように、例えば、私どもが今後進める上において、14ページのNPO等の公民学連携拠点が必要になってくると思っています。

ちなみに、この未来フォーラムが立ち上がって3カ月経過しましたが、私たちもこの場でいろいろと出された知恵や情報、そういったものを活用させていただきまして、校区全体で取り組む事業も進めることができました。例えば、校区では今まで連絡会でしたが、準備協議会みたいな形で設立することができました。ごく最近では、フェイスブックを使いたいいわゆるタワーの情報局、あるいは照葉の情報局も立ち上げました。そして、ツールド・フクオカでは両自治会ともが選手として、あるいはチームとして参加したり、横断幕をつくって応援したり、昨日は「ツールド・フクオカへの道」というラジオ放送に二人で初めて出演させていただきました。さらに、11月17日には大庭委員のご配慮で住民の声を収録いただくことになりました。12月17日は初めて校区全体で防災の取り組みを始めます。それもこれも、この3カ月の間に得られた知恵と情報をとにかく住民サイドに落として頑張ってきました。

ただ、今、委員長がおっしゃったように、いわゆる短期的な視点での文言を入れていただかないと、どうしても、Plan Do Seeの“See”のところはどうしても落ちていきます。村田委員からも指摘があったように、やりっ放しにならないためにも、住民サイドがしっかりそれをフォローする、それは自治会の組織というよりNPO的な組織、そういうものに支援をしていただく、そういうことをぜひお願いしておきたいと思っております。

それから、具体的な話で恐縮ですが、海老井委員にもお会いして、住民から強い要望のある、警察施設、あるいは、今、お話があった海とか湾というテーマに沿った図書館なり、皆さんが楽しめる施設をぜひここへつくっていただきたい。それから、市のほうには、さ



つき出ましたように、いつまでにつくるという形で先導的な公共投資をぜひお願いしたい。

というのは、住民たちの目標をそれなりに少しずつつくっていただかないと、先ほど委員のどなたかがおっしゃったように、書いてそれまでという話になりかねません。12月の提言で、短期、中期の構想をしっかりと具現化するために少なくとも12月までには予算化していただきたいし、先行的な調査をするというようなことをぜひ入れていただければと思っております。

それから、先ほど、お話がありましたように、この提言が表に出ていくときに、ある意味で、文章だけではなかなか難しい。それを、例えばCGとか模型とか、そういったもので、未来フォーラムではこういうまちにする方向でやりますよといったようなものが市民に示されれば、今までの人工島というイメージが払しょくできるのではないか。人工島そのものは一般名詞ですから消えないと思います。それより、住民とか市、あるいはこういうフォーラムみたいなものが積極的にそういうことを発信するようにすれば、「いい人工島じゃない」という話になりますので、住民としてはそういう方向でどんどん参画していったらどうかと思っております。

最後に、事業者からのご意見があったんですが、もう一つのご意見として、健康関連、いわゆる介護施設さんとか杉岡記念病院さんなどのヒアリングがされておりましたのでヒアリングしてまいりました。そこでは、早く昼食ができる施設がほしいという看護師さんたちのお声とか、介護施設さんは、事業を拡張していきたいけれども、市の健康保健局のバランスシートに乗った形でしかできないというデメリットがあるみたいです。そういうバリアをいかに上手にクリアしていくかも現実的な話としてぜひお考えいただきたいと思っております。

委員長には、このフォーラムが終了しても、このアイランドシティの顧問として終生お付き合いをお願いしたいと思います。これが締め言葉です。

**【出口委員長】** 大変ありがたいお言葉をありがとうございます。肝に銘じておきたいと思えます。ただ、ボランティアもだんだん底がついてきたものですからそろそろ引退したいと思っているところなんです。(笑)

今、いろいろなご意見、アイデアをいただきました。

前半にお話ししていただいた、NPO的な組織をきちっとつくって、これから長年かかるまちづくりに対応するというお話は、おそらく滝本委員から出していただいたエリアマネジメントというコンセプトの中に含まれるのではないかと思いますので、その中に入れ

込むような形で整理をさせていただきたいと思います。

それから、以前にも出していただきました警察施設とか図書館、こういう施設はおそらくほかの地域も欲しいと思うんですね。そこが一番の問題でして、今、福岡市、あるいは県の政策としては区ごとに図書館、警察署を整備していく形になっていると思います。おそらくそういった福岡市全体を見渡しての施設配置の政策や考え方があると思いますから、その中で整理していただくべき色合いが非常に強いかと思っております。

それから、ここは我々も戦略的に考えていかなければいけないと思いますし、地元の方の思いも私は非常によくわかるんですが、この提言書を陳情書にしてしまうと取り上げていただけなくなってしまう危険性を含んでいると思います。冒頭で整理させていただきましたが、これはあくまでも、社会を展望した福岡の未来を先導する事業としての可能性を検討した上でアイランドシティの未来像とその実現に向けた方針や戦略についての意見やアイデアを出し合って協議を進め、まとめた提言書だという主旨ですので、そこは首尾一貫した内容にさせていただきたいと思っております。

要は、アイランドシティを市民の文化的な活動の拠点にしていきたい、あるいはほんとうに安全安心なまちのモデルにしていきたいということでして、そのために必要な施設も整えていただきたいと思います。目的を達成するための具体的な方法についてはいろいろな選択肢があると思いますので、施設整備は行政の方で斟酌していただきたいと思います。

そういうまとめ方にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

どうぞ。

**【村田委員】** 今回、未来フォーラムをしばらくやっけていまして委員の皆さんが言われるように、ちゃんとまとまるんだろうとか、最後のほうで予算がないからという話を聞いたときは、ただでさえ頓挫しかけたアイランドシティの計画がこれでもし頓挫してしまったらどうなるんだろうと、結構、危機感を抱いていたんですね。それが出口委員長の手腕で何とかまいものにまとまったということで住民として非常に安心しています。

また、おもしろかったのが、第三者委員会に自分と森委員を含めてもらって住民の意見を大分反映させていただきました。そういうところがほかのまちづくりではなかなかなくて、今回、アイランドシティのまちづくりに我々が参加できたことを非常にうれしく思いますし、意見が反映されたことは大きいと思います。

今後なんですが、未来フォーラムが終わった後に、どういう名称かは知らないけれども、

またこのアイランドシティの建設計画か何かの公共的な会議なり、委員会なりがおそらくありますよね。そこもまた住民の意見も反映させるようなシステムにしていただければ、住民側としてはうれしいなと思っております。

【出口委員長】 ありがとうございます。今後、市はまだ2工区の残りの土地を開発していきますし、あと、5工区の100ヘクタールを開発していく中で、是非、住民の声を取り入れながら、全体的な首尾一貫性を持った開発をしていただきたいと思います。どうでしょうか、そういったようなことはどこか前文にもう強化したほうがよろしいですかね。

【村田委員】 理想的には参画していけたらいいなというのがあれなんですけれども、そこら辺は事情がわからないので。

【出口委員長】 おそらく公民学連携拠点の中にそういう機能が入っていくということで、文章のほうで考えてみたいと思います。

それから、今後、市は5工区などを開発していきますが、私もこれをまとめていて思ったんですが、現在やってきた方法には限界があると思うんですね。福岡市が埋立地をつくってきた方法というのは、あるブロックの土地が整序されるとそこをまず公募に出す、次が整序されるとまた公募に出すということを繰り返してきています。細切れに土地を提供して、その都度、公募がかかるので、事業者の側から見ても、総合的な観点から全体としてインフラの整備をしたり、あるテーマ性を持ってもっと広い地域の開発に取り組んだりすることがなかなかできない制度になっているのではないかと思います。

是非、次の5工区では土地を小出しにするのではなく——小出しにするという言い方は失礼かもしれませんが——民間の事業者を絡めて全体の土地のマスタープランのようなものをつくっていく。要するに、港湾局なり博多港開発が整序した順番に土地を分割して事業主体を公募していくのではなく、一括して初期の早い段階から民間の事業者を取り込んで、マスタープランや全体の構想をつくったり、あるいは、そのプランをつかった事業者がその後も開発してもいいと思うんですね。事業者の公募方式を見直していただき、もっと総合的な観点から事業者を巻き込んで公募するような方法につくり変えていかないといけないのではないのでしょうか。この提言書をつくっていて、その辺が根本的な問題なのかと思いました。提言を実際に実行していくとなると、方式を見直していただく必要があるかと思えます。それも是非この中に入れ込んでいくことを考えたいと思います。

他に何かございますか。いかがでしょう。よろしいですか。済みません、先ほどは失礼

なことを申し上げます。

では、もしよろしければ、もう4時15分を回りましたので、予定の時間よりは若干早いのですが、第5回目のアイランドシティ・未来フォーラムを終わりにさせていただきたいと思います。

今日も皆様からまた建設的なご意見を多数いただきましてありがとうございます。それらを踏まえてこの提言書のたたき台に修正を加えて、次回は素案という形でご提示させていただいて、また皆様にご審議いただきたいと思います。予定では次回が最終回ということになっておりますので、その辺も踏まえて、もし事前にご意見等があれば事務局の方にお寄せいただければと思っております。よろしく願いいたします。

それでは、これもちまして第5回のアイランドシティ・未来フォーラムを閉会させていただきます。

では、事務局にマイクをお返しいたします。

**【事務局（谷口）】** 皆さん、長い時間、どうもありがとうございました。次回フォーラムは12月3日土曜日、1時30分から、こちらの同じ会場で開催させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。どうもお疲れさまでした。

— 了 —